

# 参考資料（目次）

## 以下のスライド11枚

1. 六甲トンネルからの汚濁水による津門川での魚類大量死  
(2018年12月5日 神戸新聞)
2. 魚類大量死の現場写真
3. 市民の要望により新設された魚道（要望書、新設魚道、魚道を遡上したアユ）
4. 津門川で確認された魚類（2003年の調査結果）
5. 2003年に新設された水生植物育成地が老朽化した写真（2019年2月）
6. 現在の津門川の魚道（正面からの写真）
7. 現在の津門川の魚道（上から見た写真）
8. 今後の魚道づくりの参考写真
9. 今後の魚道づくりの参考写真
10. 今後の魚道づくりの参考写真
11. 今後の魚道づくりの参考写真

2018/12/5 21:10 神戸新聞NEXT

## 西宮・津門川白濁、魚死ぬ 市が調査、人体に影響なし

ツイート

おすすめ 1

シェア

印刷



水が白く濁った津門川 = 5日午前、西宮市北昭和町（撮影・風斗雅博）

拡大

5日午前、兵庫県西宮市の津門川で「川が白く濁り、魚が死んでいる」と住民らから同市などに通報があった。同市によると、同市上甲東園6の付近から下流にかけて川の水が白濁し、コイやフナが浮いて死んでいるのが見つかった。水はモルタルを含んで濁っており、同市は人体に影響はないとしている。

同市環境保全課によると、川の水が白く濁っているのは山陽新幹線六甲トンネル入り口付近からといい、近くにあるトンネル

の湧き水をためる貯水槽でモルタルを含んだ水が見つかった。貯水槽の水は水路を通じて津門川に流入しているといい、同市などが原因を調べる。（名倉あかり）

# 六甲トンネルの濁水流入による津門川での魚類大量死

2018年12月5日 菅澤邦明氏（津門川の自然を守る会）撮影



# 魚道の新設 (2003年)

## 西宮市民の陳情により西宮土木事務所が工事



津門川の堰に魚道を設置するお願について

拝啓 平素は 市民のために尽力いただき誠に厚く御礼申し上げます。  
さて 表題につきまして 津門川の管理は県とのことで 別添のとおり兵庫県飯神南県民局長長渡邊勝幸殿あて、お願いをいたしましたので、お知らせと共に今後ともご指導を よろしくお願いいたします。

- 西宮市甲斐町二丁目八十八番地  
にしきた川を守る会 三  
西宮市甲斐町一丁目九番地  
にしきた商店街 九  
西宮市甲斐町二丁目十五番地  
にしきた川を守る会 二  
西宮市甲斐町二丁目八十八番地  
にしきた川を守る会 二  
西宮市甲斐町二丁目八十八番地  
にしきた川を守る会 二  
西宮市甲斐町二丁目八十八番地  
にしきた川を守る会 二  
西宮市甲斐町二丁目八十八番地  
にしきた川を守る会 二

西宮市長 山田 知殿  
平成十四年十二月二十日

### 陳情書

拝啓 平素は 地域住民のために格別のご理解と指導を賜り厚く御礼申し上げます。

さて 私達の街中を流れていきます津門川は「にしきた川を守る会」に「にしきた商店街」  
「自治会」等が 自分たちのにきた川として愛し 毎年「にしきた川祭り」「にしきた  
フォーラム」を開催し いたたいて自然環境を守り親しみが持てる川にするかの勉強会を  
行なっております。 その一環として毎月第一日曜 地元住民が積極的に参加して川掃除  
を行い、鯉の放流を行なってきました。 今年はやや大型の錦鯉 黄金の鯉を八匹放流  
しました。 魚は自然の大きなゴイやフナ オイカワ カワムツ 天然アユなどが連立  
したまわりの川と戻り戻り戻り戻ります。 これらの魚が大雨のたびに堰の下に流  
されています。

つきましては、この堰が相当高い段差で二メートルはあるかと思えます。 フォーラム  
の席上講師の山本義和神戸女学院大学教授のお話で側面に魚道を付けてはどうかとのアド  
バイスが有りました。 魚道を付けることが出来れば魚が上下に行き来できて川はより  
自然に近づくことになると思います。 地元住民は行き交う入道が川に魚が泳いでいる  
景色を眺めて安らぐことができる川にしようとして努力しています。 私達の願いをご理解  
頂き 何卒 魚道の新設について ご配慮下さいますようお願いするものです。

添付資料

- 一 堰の位置図
- 一 堰の現状写真

平成十四年十二月二十日

兵庫県飯神南県民局長  
局長 渡邊勝幸殿

敬具



# 津門川で確認された魚類（2003年7月調査）

かなり多くの魚種が生息していた



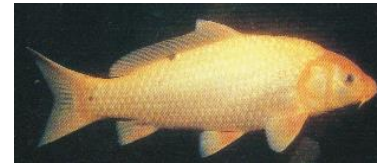
アユ



コイ



ギンブナ



ヒゴイ



カワムツ



オイカワ



ニゴイ



カマツカ



コウライモロコ



ドジョウ



ナマズ



トウヨシノボリ



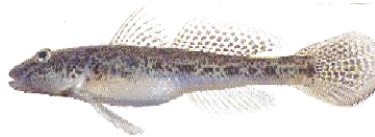
カワヨシノボリ



ウキゴリ



ドンコ



マハゼ



スズキ



ボラ



メナダ



ウナギ

# 崩壊寸前の水生植物育成地（2019年2月）



## 津門川の魚道（正面からの写真）

- ・ 階段式魚道（1段目は横幅が狭く、落差があり、急流になる。）
- ・ 1段～5段の間はプール状で水深があるので、遡上しやすい。
- ・ 1段目から下の水面まではかなりの落差があり、水深も浅いので、魚が1段目まで遡上することが難しい。
- ・ 魚道の基本構造は変えないで、1段目と水底の間に工夫をして、水流を緩やかにし、魚などの水生動物が遡上しやすいように工夫出来ないだろうか？



## 津門川の魚道(上からの写真)

- ・魚道の1段目と2段目の間はプール状。
- ・1段目から下の水面までは落差があり、急流。
- ・1段目の下の水面が非常に浅い。
- ・その下流5mほどからは深くなっている。





## 魚道の参考1

表面に自然石を埋め込んだ傾斜式の魚道の例。津門川では、川の表面を流れるゴミがここに留まり、景観が悪くなる心配もある。



## 魚道の参考 2

籠の中に玉石を配置した簡易な方法（仁川にて）



## 魚道の参考 3

石積み魚道の工事中と思われる写真



## 魚道の参考4 (山本撮影)

コンクリート平板の斜め置きで、水流を緩やかにする (仁川にて)

